

事業名		確かな学力の向上					評価実施者		所 属 心の教育推進室 職・氏名 室長 水林俊治			
事業の概要	開始年度	根拠法令等					特定財源					
	実施方法	☒ 直接 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担金 ☒ その他〔教員の加配〕										
	目的	児童生徒に基礎・基本を確実に定着させ、確かな学力を育成するために、個に応じた指導を図る子どもの実態把握と指導体制づくり										
事業内容		・少人数指導・チームティーチングなどの指導方法の工夫・改善に積極的に取り組む。 ・標準学力検査を実施し、児童生徒の学力の実態の的確な把握と学習指導の改善を図る。										
事業コスト	区 分	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	特 記 事 項					
	事業費(A)	2,712	2,653	2,560	6,511	6,434						
	うち一般財源											
	人件費(B)											
総コスト(A)+(B)	2,712	2,653	2,560	6,511	6,434	※単位：千円						
実績と成果	区 分	単位	H16	H17	H18	H19	H20	左記以外の19年度の実績・成果				
	事業の実績 (アウトプット)	1	チームティーチング等	人	9	9	9	11	全小中学校において、4月の第四火曜日に全国学力・学習状況調査を実施(成果として、その結果を学力向上対策に生かすための学力向上プランを作成)			
		2	標準学力検査の実施	校	11	11	11	11				
		3										
	事業の成果 (アウトカム)	1										
		2										
3												
評価項目	点数	判 定 及 び 説 明 ・ 考 察										
1 適応性	8	①市民ニーズや社会経済情勢の現状に適しているか。					☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1					
		②事業を市が行う必要性があるか。					☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1					
		上記目的を達成するために、市独自の事業も必要である。										
2 有効性	8	③事業の目的に照らして効果的な手法か。					☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1					
		④施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。					☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1					
		一人一人の学習状況を的確に把握するために、標準学力検査を全小中学校において実施し、その結果分析を行い、学習指導に活かしている。										
3 目標達成度	7	⑤目標の水準は適切か。					☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1					
		⑥計画通りに目標を達成できたか。					☐ 4 ☒ 3 ☐ 2 ☐ 1					
		各学校では、標準学力検査を実施し、児童生徒の実態を把握し、学力向上対策の検討に役立てることができた。										
4 経済性効率性	7	⑦コストは縮減しているか。					☐ 4 ☒ 3 ☐ 2 ☐ 1					
		⑧事務は効率的に行われているか。					☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1					
		市費による持ち出しはあるものの、個に応じた指導が図られ、基礎的・基本的な学習事項の定着や学習意欲の向上が見られる。										
総合評価	合計	30	ランク	上記評価を踏まえた事業の課題								
	↓ 100点換算	94	A									
		教育課程の編成・実施・評価・改善について、指導助言を行う。										
		☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピートアップ ☒ 検証 ☐ 現状維持										

◎外部評価

評価項目	点数	判 定	点検・評価に関するコメント
1 適応性	8	① ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 ② ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1	学力向上は永遠の課題でもあり、施策が妥当なのか、推進状況がどうなのか、常に向上を追求していかなければならない。
2 有効性	8	③ ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 ④ ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1	
3 目標達成度	7	⑤ ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1 ⑥ ☐ 4 ☒ 3 ☐ 2 ☐ 1	
4 経済性効率性	7	⑦ ☐ 4 ☒ 3 ☐ 2 ☐ 1 ⑧ ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1	
合計	30	↓ 100点換算	
	94	ランク	A

教育相談員兼学習支援員にかかわる成果と課題について 滝川市立東栄小学校

☆小規模校における学習到達度や学力向上策、複式教育の指導方向の工夫・改善に係わるの実践状況

【成 果】

1. 学習支援員としての役割

- (1) 複式学級における指導体制の工夫や学力向上の対策として十分に機能している。
 - 2・3の複式学級における協力教授(TT)を効果的に行っている。
 - 1・2の生活科におけるTTや補助員としての効果をあげる。
 - 2年生の学力向上策として、算数科を2・3年の複式から単式の形態にして指導効果を上げている。(週4時間程度)
 - 学級担任の教材づくりの援助や支援員自身のアイデアによる教材作りに貢献している。
- (2) 学級担任の補欠授業者として
 - 学級担任が欠けた場合(病欠・出張等)の補欠授業を組むことができ、自習にならずに、予定通りの児童の予定学習を進めることができる。また、安全管理の点においても有効である。
- (3) 特別支援教育学級における支援員として
 - 職員朝会の時間帯における特別支援児童(情緒障害：多動性有り)への世話などの対応にあたることにより、学級担任が朝会に参加できる。
 - 学級担任以外に学習や生活安全上必要な時に、補助やTTとして配置できる。
 - 発達障害傾向(要観察)のある児童への支援にあたり成果をあげている。

2. 教育相談員としての役割

- 日常の学校生活(朝・休み時間等)における校内巡視により、子どもたちの様子の把握とその場での指導(直接指導)が可能である。
- 日常の校内生活で、学級担任の目の届かないところでの子どもたちへの支援(遊び等)と学級担任への情報提供ができる。
- 学級経営や生徒指導上の問題がある学級において、個別指導にあたることにより、未然化、円満化を図ることに有効である。

3. 校務分掌上のサポートとして

- 小規模であるが故、一人が複数の業務が重なる場合がある。その時に、相談や手伝いなどの援助者として貢献している。

【課 題】

- 1. 予算の関係上、一日に勤務する時間に制約があり、放課後等での情報交流や打ち合わせ等の時間を確保する努力はしているが、それにも限界があるので十分な打ち合わせができない。
- 2. 勤務時間の関係で、全体研修や職員会議等に基本的には参加できないため、共通理解を図るのに支障もある。必要に応じて延長することもあるが、十分とはいえない状態である。
- 3. 教育相談員としての業務と学習支援員としての業務を兼ね備えた支援員としては、子どもにとって、また学校にとっても大変有効である。しかし、実質的な勤務内容と本人の経済基盤を考えると、それに見合う給与(時間給)保証をすることにより一層の勤務意欲につながると考える。
(障害児、小・中・高1、図書司書各免許有り)

「指導方法の工夫改善を实践する江部乙中学校への教員配置研究事業」

滝川市立江部乙中学校

1 具体的な研究内容と事業報告

研究課題 「共にわかり、共に高まる授業のあり方」～少人数・グループ学習の追究

※ 学校全体で、きめの細かな個別指導あり方を研究

2 背景

江部乙校区にあっては児童数の減少により、幼少中と10年間、1学級という閉塞感のある教育環境が続きます。お互いがよく分かり仲が良く、まとまる反面、人間関係の固定化が進みやすく、とすると切磋琢磨の気概も薄らぐ傾向が見られます。今回のできごとからの状況改善策として、可能であれば意図的に、中学校生活にて一度2学級に分かれ、お互いを外からみて切磋琢磨する人間関係を作らせたいと考えました。しかし、該当の2学年に心理的負担や特別な意識をさせることなく行うには、1学級39名の3年生を2学級に分けることが最良と考えました。学級編成の許可は、道教委に対して協議を申し出て、特例許可を得ました。2年間の配置ですので、来年度になると課題を抱えていた2年生も3年生になり自ずと2学級に分かれ、当初の目的を達することができます。また、学校研究課題として「共にわかり、共に高まる授業の追究として、効果的な少人数・グループ学習のあり方を研究し2年後の公開研に向けて成果を上げているところです。

3 方策

- ①、教員定数1名増加枠により、学級編成の許可を、道教委に対して協議を申し出て、特例許可を得る。3学年を少人数2学級化 A組20人 B組19人 とする
- ②、1年・2年の英語と数学をT・Tとして実施
- ③、全学年理科、1年・2年の国語をT・Tとして実施
- ④、選択授業において、「探求・深化」と「補充・復習」の教科の開設

4 成果と課題

- ①個別指導により、一人一人の学習意欲や関心が高まり全体のレベルアップが図れた
- ②少人数学級とT・Tのきめ細かい指導により基礎学力の定着を図ることが出来た。
※平成19年度全国学力テスト結果の結果より
- ③少人数学級により一人一人の教育相談を充実させ、生徒の思いや希望を実現させる生徒指導が充実
- ④複数学級化により、固定化しがちな人間関係の中に切磋琢磨のみられる、望ましい集団が形成
- ⑤現在、全教職員あげて、負の遺産解消のため、生徒一人一人の心に寄り添い、お互いを思いやる心の充実に努めいじめ撲滅を図っております。さらに加配により当該学年生徒に、「心の裏側を聞く」カウンセリング手法などを用い、一人一人の心の内面に深く迫る生徒指導に努め、「心の居場所」「安らぎのある学校」を創って参りたいと考えております。
- ⑥嘱託教諭（市職員）の勤務運用について検討の必要があります。
※出張旅費 引率旅費 研修旅費 時間外勤務 部活動対応 等が未対応でした。